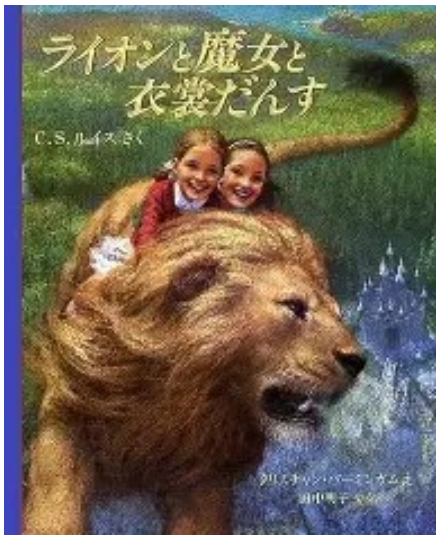
# 『椿三十郎』と『ﾗｲｵﾝと魔女と洋服だんす』

**『椿三十郎』**では、、若侍たちが荒れ寺に集まる。彼らは**家老たちの不正や陰謀**について話し合う。話し合いの最中、押入れに隠れていた三十郎が突然現れる。
三十郎は若侍たちの考えが甘いことを指摘し、本当の敵が誰かを教える。

一方、**『ﾗｲｵﾝと魔女と洋服だんす』**では、ﾙｰｼｨが洋服だんすの中へ入る。洋服だんすの奥にﾅﾙﾆｱ世界が広がっている。ﾅﾙﾆｱでは**白い魔女**による支配と、それに抵抗する勢力が存在する。
そこで最終的に子どもたちは**ﾗｲｵﾝ（ｱｽﾗﾝ）**と出会い、善と悪の対立の真実を知る。

この二つの場面には、「隠された場所から導き手が現れる」という共通した構造がある。洋服だんすの奥にはｱｽﾗﾝへとつながる世界が広がり、荒れ寺からは三十郎が現れる。どちらも主人公たちが知らなかった真実の世界への入口となっているのである。














「あなたはｷﾞﾗｷﾞﾗし過ぎていますね。抜き身みたいに。…あなたは鞘のない刀みたいな人。よく斬れます。でも**本当にいい刀は鞘に収まっているものですよ**」。



ﾗｽﾄﾎﾞｽ







**『大人しく鞘に収まっていろ』**

**1. 優れた指導者・守護神的の存在**

・『ﾗｲｵﾝと魔女と洋服だんす』では、**ﾗｲｵﾝ（ｱｽﾗﾝ）**のが善の指導者として子どもたちを導きます。
・**『椿三十郎』**では、三十郎が経験不足の若侍たちを陰から助け導きます。

**2. 若者の成長物語**

・ﾍﾟﾍﾞﾝｼｰ兄妹はﾅﾙﾆｱで試練を経験し、王や女王として成長します。
・若侍たちは三十郎の活躍を通して、理想論だけでは世の中を渡れないことを学びます。

**3. 善と悪の対立**

・ﾅﾙﾆｱでは白い魔女による圧政とﾗｲｵﾝ（ｱｽﾗﾝ）側の正義が戦います。
・『椿三十郎』では腐敗した権力者と、それに立ち向かう若者との対立が描かれます。

**4. 真の強さとは何か**

・ﾗｲｵﾝ（ｱｽﾗﾝ）は力だけでなく自己犠牲によって勝利します。
・三十郎は剣の達人ですが、むやみに人を斬ることを嫌い、できるだけ流血を避けようとします。

「強さとは暴力ではなく、知恵や節度、自己犠牲を伴うものだ」

**5. 戦いのあとに平和を目指す**

・ﾅﾙﾆｱでは魔女の支配が終わり平和な王国が築かれます。
・『椿三十郎』でも三十郎は権力を求めず、問題解決後は去っていきます。

**※ﾗｲｵﾝ（ｱｽﾗﾝ）は「理想の王」、三十郎は「理想の武士」**

**※「強い者が前に立つのではなく、若者を育てて次の時代を託す」**

s.kazumitu